月　日　名前　　／50点

【答え】

【中2】国語 文章テスト　説明文 1/2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

理科の実験の前に、先生から「結果を予想してみよう」と言われたことがあるだろう。面倒だと感じた人もいるかもしれない。どうせすぐに結果が出るのに、なぜわざわざ予想するのだろうか。

予想をしないで実験をすると、目の前で起きたことを、そのまま受け取るだけになる。「へえ、こうなるのか」と思って、それで終わる。ところが、先に予想をしておくと、結果を見たときに、自分の予想と比べることになる。予想が当たれば、自分の考え方が正しかったと確かめられる。外れれば、「なぜ違ったのだろう」という問いが生まれる。

大切なのは、外れたときである。予想が外れたということは、自分の頭の中の考えと、実際の世界との間に、ずれがあったということだ。そのずれに気づいたとき、人ははじめて、自分の考えのどこを直せばよいかを探し始める。予想のない人には、そもそも直す場所が見つからない。外れるための予想をしていないからである。

これは、実験に限った話ではない。本を読むときに「この後、主人公はどうするだろう」と考えながら読む人は、展開が思いがけなかったとき、作者の工夫に気づくことができる。人と話すときも、相手の答えを予想しておくと、その違いから相手の考えがよく見えてくる。

予想するとは、自分の考えを、先に外の世界に差し出しておくことだ。差し出した考えが打ち返されたとき、考えは少しずつ正しい形に近づいていく。だから、当たるかどうかを気にする必要はない。外れることをおそれずに予想すること。それが、学ぶことの入り口なのである。

（この問題のための書き下ろし）

問一（十点）　筆者は、予想をしないで実験をすると、どうなると述べていますか。本文中から二十五字以内で抜き出しなさい。

目	の	前	で	起	き	た	こ	と	を	、	そ	の	ま	ま	受	け	取	る	だ	け	に	な	る

問二（十点）　筆者が「大切なのは、外れたときである」と述べるのはなぜですか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　外れるとくやしくなり、次は当てようと努力するから。
イ　外れたことで考えと実際のずれに気づき、自分の考えの直す場所を探し始めるから。
ウ　外れた予想は、先生にほめてもらえるから。
エ　当たった予想は、すぐに忘れてしまうから。

イ

問三（十点）　「予想のない人には、そもそも直す場所が見つからない」とありますが、その理由を「～から」につながるように、本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

外	れ	る	た	め	の	予	想	を	し	て	い	な	い	

問四（十点）　第四段落で、筆者は実験のほかにどんな例を挙げていますか。二つの例を、それぞれ何をするときの話か分かるように、四十字以内でまとめなさい。

展	開	を	予	想	し	な	が	ら	本	を	読	む	と	き	と	、	相	手	の
答	え	を	予	想	し	て	人	と	話	す	と	き	の	例	。				

問五（十点）　筆者の考えとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　予想は当たることが大切なので、よく調べてから予想するべきだ。
イ　実験では、予想よりも結果を正確に記録することのほうが大切だ。
ウ　外れることをおそれずに予想することが、学ぶことの入り口である。
エ　予想が外れる人は、考え方を根本から変えなければならない。

ウ

月　日　名前　　／50点　　合計　／100点【答え】

【中2】国語 文章テスト　物語文 2/2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

陽太が引っ越すことは、夏休みの前から知っていた。幼稚園のころからずっと隣の家に住んでいた陽太は、父親の仕事の都合で、遠くの町へ行く。

引っ越しの朝、ぼくは窓から、陽太の家の前に止まったトラックを見ていた。見送りに行くつもりだった。けれども、何を言えばいいのか分からなかった。「元気でね」も「また会おう」も、ありきたりすぎて、言ったとたんに本当のお別れになってしまう気がした。

荷物がすべて運び出され、トラックが先に出ていった。陽太の家族が車に乗りこむのが見えた。ぼくはまだ、窓の前から動けなかった。

そのとき、陽太が車の横で立ち止まり、こちらの窓を見上げた。目が合った。陽太は、右手の人さし指を立てて、それからくるりと円をかいた。

ぼくは、はっとした。小学生のころ、二人で決めた合図だった。「またあとで」という意味だ。放課後に別れるとき、どちらからともなく、この合図をした。何百回もしたはずなのに、最近は照れくさくて、すっかりしなくなっていた。

ぼくは窓を開けて、同じように指を立て、円をかいた。陽太は少し笑って、車に乗りこんだ。車は角を曲がって、見えなくなった。

言葉は、何も言えなかった。でも、ぼくは不思議と、悲しいばかりではなかった。「さよなら」の合図ではなく、「またあとで」の合図で別れたのだ。そのことが、胸の中で小さな約束のように光っていた。

ぼくは机に向かい、陽太の新しい住所が書かれた紙を、引き出しから取り出した。

（この問題のための書き下ろし）

問一（十点）　ぼくが「元気でね」や「また会おう」を言えないと思ったのはなぜですか。「～気がした」につながるように、本文中から二十五字以内で抜き出しなさい。

	言	っ	た	と	た	ん	に	本	当	の	お	別	れ	に	な	っ	て	し	ま	う			

問二（十点）　陽太がした合図は、どんな意味の合図でしたか。本文中から五字で抜き出しなさい。

ま	た	あ	と	で	

問三（十点）　「ぼくは、はっとした」とありますが、その理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　陽太が怒っているように見えたから。
イ　最近はしなくなっていた、二人で決めた合図を陽太がしたから。
ウ　陽太の家族が、ぼくに気づかずに出発しようとしたから。
エ　陽太が何か大切な物を忘れていったから。

イ

問四（十点）　「悲しいばかりではなかった」とありますが、それはなぜですか。「合図」という言葉を使って、四十五字以内で説明しなさい。

「	ま	た	あ	と	で	」	の	合	図	で	別	れ	た	の	で	、	ま	た	会	
え	る	と	い	う	約	束	の	よ	う	に	感	じ	ら	れ	た	か	ら	。					

問五（十点）　最後の一文から読み取れる、ぼくの気持ちとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　陽太のことを早く忘れようとしている。
イ　陽太との約束を大切にして、これからも連絡をとろうとしている。
ウ　陽太の住所をなくさないように、しまい直そうとしている。
エ　陽太に言えなかったことを後悔し、何もする気が起きない。

イ

【中2】国語 文章テスト（100点）　説明文 1/2　答えと解説（1問の配点は問題の半分）

問一（十点）　答え：目の前で起きたことを、そのまま受け取るだけになる

解説：第二段落の最初の一文が根拠。「へえ、こうなるのか」で終わってしまう、という具体例が続いている。

問二（十点）　答え：イ

解説：第三段落の「そのずれに気づいたとき、人ははじめて、自分の考えのどこを直せばよいかを探し始める」が根拠。ア・ウ・エは本文にない。

問三（十点）　答え：外れるための予想をしていない

解説：直後の「外れるための予想をしていないからである」が根拠。予想がなければ、ずれそのものが生まれない。

問四（十点）　答えの例：展開を予想しながら本を読むときと、相手の答えを予想して人と話すときの例。

解説：第四段落の「本を読むときに～」「人と話すときも～」の二つ。どちらも、予想と実際の違いから、作者の工夫や相手の考えに気づけるという例。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①本を読むとき（展開を予想する）

②人と話すとき（相手の答えを予想する）

問五（十点）　答え：ウ

解説：最後の段落の「当たるかどうかを気にする必要はない」「外れることをおそれずに予想すること。それが、学ぶことの入り口なのである」が根拠。アは本文と逆。

【中2】国語 文章テスト（100点）　物語文 2/2　答えと解説（1問の配点は問題の半分）

問一（十点）　答え：言ったとたんに本当のお別れになってしまう

解説：第二段落の最後の一文が根拠。ありきたりの言葉を口にすると、別れが本当になってしまうようで言えなかった。

問二（十点）　答え：またあとで

解説：第五段落の「『またあとで』という意味だ」が根拠。

問三（十点）　答え：イ

解説：直後の「小学生のころ、二人で決めた合図だった」「最近は照れくさくて、すっかりしなくなっていた」が根拠。

問四（十点）　答えの例：「またあとで」の合図で別れたので、また会えるという約束のように感じられたから。

解説：第七段落の「『さよなら』の合図ではなく、『またあとで』の合図で別れたのだ」「小さな約束のように光っていた」が根拠。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①「またあとで」の合図で別れた（「さよなら」ではない）

②また会えるという約束のように感じた

問五（十点）　答え：イ

解説：「またあとで」を約束と感じたぼくが、新しい住所の紙を取り出したことから、連絡をとろうとしていると読める。ウは、しまうのではなく取り出しているので合わない。